

国際患者安全目標 (IPSG)

筑波大学附属病院

～本院の職員及び本院を訪れた方へ～

筑波大学附属病院では、患者安全に関する取り組みをすでに行ってきましたが、さらなる患者安全を目指し、JCI*の基準に沿った詳細な行動目標を設定し、遵守しています。

本院の職員はここに掲げる6つの目標を遵守し、患者安全を徹底していきます。

その際に、本院の職員や医療を受ける方を含む全ての方々に参画していただくことがあります。

皆様のご理解とご協力を
よろしく願いたします。

筑波大学附属病院院長

* JCI=Joint Commission International
(第三者の視点から医療機関を評価する
国際的な機関)

目標1 確実な患者確認を行います

人を取り違えることは重大な事故につながるため、2種類以上の情報をいただいで誤認を防止します。

●本院の職員は、「**氏名及び生年月日**をおっしゃってください」と尋ねます。そして、お答えと手元の情報を照合します。

●乳幼児など**名乗れない方**は、本人の代わりに、家族や付添人に名乗っていただきます。

●入院中に輸液や輸血を行う場合は、**ネームバンドのバーコード**を使って個人認証します。

目標2 良好なコミュニケーションを図ります

良好なコミュニケーションは間違いを減らし、安全な医療の提供を可能にします。医療を受ける方々に、様々なことを分かりやすい言葉で説明しますので、よく聞いて質問してください。

●本院は、口頭または電話での伝達事項の正確度を高めるため、伝えられた内容は、書き留めて**復唱**します。

●検査担当者は**パニック値**を定め、発見したら速やかに検査依頼医に報告します。

●勤務中に経験した重要な情報を、定められた書式を用いて、次に担当するスタッフに**引き継ぎ**ます。



目標3 薬剤投与時の安全性の確保に努めます

薬剤を適切に管理し、薬剤の投与違いを防ぎます。

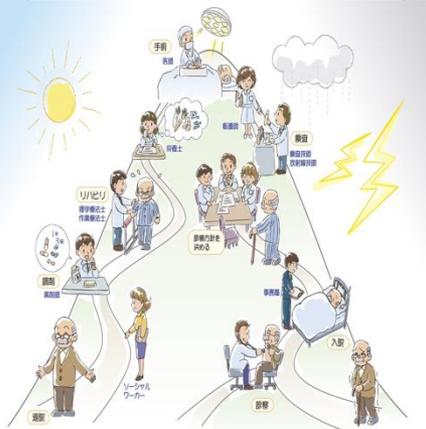
●**ハイリスク薬**と、中でもとくに取り扱いに注意を要する**ハイアラート薬**を定め、表示をしたり、使用上の注意を特記し、保管場所を制限しています。

●注射用抗がん剤の処方書は、承認された**レジメン(治療計画書)**と照合しています。

●注射薬を調製する際と投与する際は、必ず2名以上の職員、または**PDA***により患者と薬剤を確認します。



* PDA(携帯型端末)



目標4 手術など侵襲的処置を行うとき、正しい患者、正しい部位、正しい手順にもとづいて施術します

●右左がある手術対象部位に、処置を受ける方々と協力して明確な**マーキング**を記します。

●施術前に**タイムアウト***を、麻酔導入前に**サインイン**を、退室前に**サインアウト**を行います。

●手術を実施する際には、**統一した方針と手順**を医療事故防止マニュアルに定め実施しています。

*タイムアウト・サインイン・サインアウト
医師、麻酔科医師、看護師等が一斉に手を止めて、患者の名前・部位・術式などを声になで確認すること

目標5 検査・治療・ケアに伴う感染のリスクを減らします

●医療関連感染リスクを低減するための方針および手順を、**院内感染対策マニュアル**に定めています。

●エビデンス(科学的根拠)に基づく**手指衛生**のガイドラインを定めて実施します。

5つの手指衛生タイミング



目標6 転倒による負傷の危険を減らします

●すべての入院患者と、外来患者に対し、定められた手順により**転倒リスク**を評価し、その評価にもとづき、転倒予防のために介入します。

●病状が変化したときや手術後などには、**再評価**します。



<参考文献と引用>
<http://www.jointcommission.org/>
筑波大学附属病院
・医療事故防止マニュアル
・院内感染対策マニュアル
・看護手順書等